

研究レポート No.852 岩手県農業研究センター

ユズの低樹高化でらくらく作業、収量アップ！！

【1 成果の概要】

陸前高田市では地域のユズを「北限のゆず」としてブランド化する取組が見られています。現在収穫を行っている樹は、放任状態で樹高が高いものが多く、収量や収穫効率が低いため、ユズ果実の安定供給に向け、樹形改善の実証を行いました。

- (1) 樹形改善は図1のとおり行い、樹形を開心形に近づけます。強せん定を避けるため、樹高は年1m程度を目安に段階的に低下させ、目標樹高は3~4mとします。
- (2) 樹形改善を行うことにより、受光体制が改善され、無せん定樹と比較し収量は増加します。また、結実部位が下がり、ほぼ全量収穫が可能となります(表1)。
- (3) 収穫効率(10kgあたりの収穫時間)はせん定前と比較し1~3割向上します(表1)。

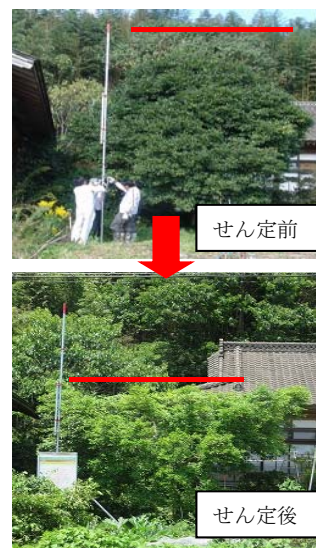
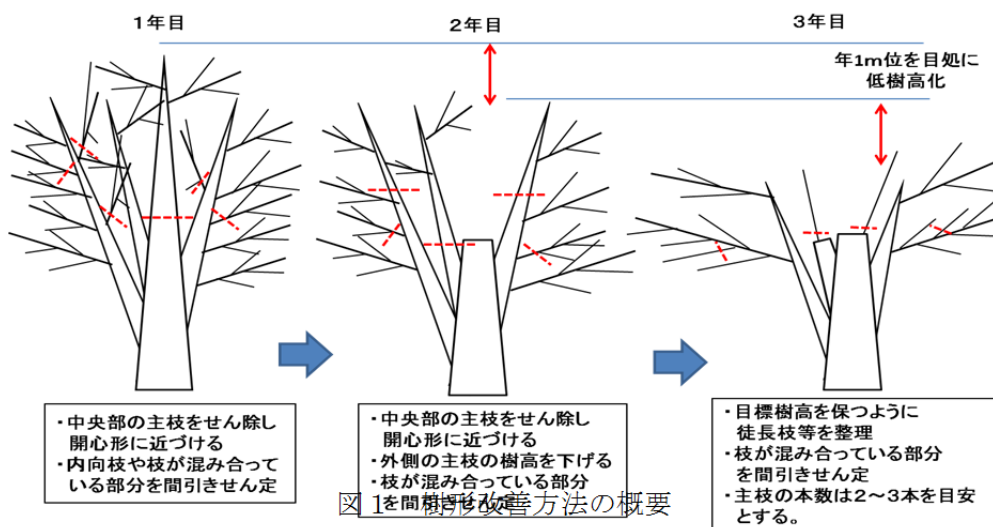


図1 樹形改善方法の概要

試験区	年度	樹高(m)	収穫作業時間(のべ時間)	収量(kg)	10kgあたりの収穫時間	未収穫果実数(個)
樹形改善樹	H25	6.4	1時間30分	33.4	26.9分	0
	H26	5.1	8時間24分	181.9	25.1分	126
	H27	4.4	1時間2分	39.6	19.9分	7
	H28	4.1	6時間40分	147.8	24.0分	0
無せん定樹	H25	6.3	1時間32分	29.1	31.6分	15
	H26	6.6	1時間35分	29.0	33.0分	65
	H27	6.7	3時間13分	62.1	31.2分	150
	H28	6.7	4時間49分	14.2	34.5分	50

※H25の樹高はせん定前の樹高。

※収穫作業時間はのべ時間(収穫作業人数 H25: 2名、H26: 2名、H27: 3名)

※収穫作業時間・収量には、区外(周囲の障害物等により収穫効率計測から外した部分)も含む。

※未収穫果実数は手が届かない等で収穫出来なかった果実数(概数)。収量には含まない。

【2 留意事項】

- (1) せん定時期は樹の枯れ込みを防ぐため、厳寒期を避け、4~5月を目処に実施します。
- (2) せん定後伸長した春枝、夏枝が翌年の結果母枝になるため、夏以降のせん定は徒長枝の除去程度にとどめます。
- (3) ユズは隔年結果性が強いいため、年により収量が大きく変動する場合があります。

※本研究は、農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」採択課題「ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究」に基づいて実施されました。

担当研究室 技術部 果樹研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1

TEL. 0197-68-4419 FAX. 0197-71-1083